

塩瀬 宏 略歴

- 1951 年 愛知県立豊橋時習館高校・卒業
- 1951 年 4 月 東京大学教養学部文科二類・入学
- 1953 年 同大学文学部フランス文学科・進学
- 1955 年 同大学・卒業
- 1955 年 10 月 フランス政府保護留学生として渡仏，以降六十年まで，パリ大学文学部，国立コンセルヴァトアール（演劇校）などにおいて，現代演劇の理論と実践を中心に学習。
- 1960 年 1 月 帰国。以降六十年代前半は，草月アート・センターにおいて演劇の実験をこころみる。
- 1968 年 この年より七一年まで国学院大学，法政大学，立教大学などで非常勤講師（仏語）。
- 1971 年 国学院大学専任教員。
- 1973 年 立教大学一般教育部（仏語科）専任教員となり九八年三月まで勤務。（現在，同大学名誉教授）

（塩瀬 宏編）

塩瀬 宏 書いたものと訳したものなど

論文

- A・アダモフについての覚書き (I) (立教大学・フランス文学誌 3 号)
- アダモフ覚書き (II) (同誌 13 号)
- アダモフ覚書き (III) (同誌 16 号)
- アダモフ覚書き (IV) (同誌 23 号)
- 「アダモフ覚書き」の余白に (同誌本号)

翻訳

- 「たたかう男」(J・ヴォーチェ)〈今日の仏演劇〉シリーズの内 白水社
- 「演劇・この政治的なもの」(B・ドルト) 同シリーズ 白水社
- 「わが演劇の歩み」(A・アダモフ) 同シリーズ 白水社
- 「絵画と妖異」(S・ダリ) ブルトン編「黒いユーモア・アントロジー」の内 國文社
- 「ジャック、又は降参」(E・イオネスコ) イオネスコ戯曲全集 (I) 白水社
- 「四人ばやし」(E・イオネスコ) 同戯曲全集 (III) 白水社
- 「大佐の写真」(E・イオネスコ) 白水社
- 「オフ・リミッツ」(A・アダモフ)〈現代世界演劇全集〉の内 白水社
- 「十字架への献身」(A・カミュ)〈カミュ全集〉の内 新潮社
- 「シネ・ロマン」(R・グルニエ) 白水社
- 「ポエジーとしてのシネマ」(P・パゾリーニ)〈映画理論・集成〉の内 フィルム・アート社
- など。

ほかに新聞・雑誌などへの寄稿として

- 「フランス戦後演劇・素描」 芸術新潮 60 年 3 月号
- 三田文学主催「芸術シンポジウム」(司会・寺山)への参加と寄稿 三田文学 60 年
- 「フランス演劇のもうひとつの系譜」 読売新聞 60 年 4 月

読売新聞・連載企画「あたらしい芸術」の内の「演劇」の項 読売新聞

63年8月～9月

「アンチ・テアトルとアンチ・シネマ」 映像芸術 65年12月号

「もうひとりのユビュ」 テアトロ 65年7月号

「もうひとつの演劇（A・アルトー試論）」現代誌手帖 67年9月号

「アンリ四世の栄光と悲惨（ピランデルロをいかに演じるか）」 新劇
67年9月号

「アヴァン・ガルドの姿勢」（N・バタージュとの対話） 新劇 68年1月号

朝日ジャーナル誌コラム〈文化ジャーナル〉の〈ステージ〉欄のモニターとして企画および執筆（69年～72年）

〈評伝 A・アルトー〉（J・L・ブロー）の「書評」 朝日ジャーナル
77年4月

「私的な覚書き（六十年代演劇への）」 岩波「文学」誌〈今日の演劇〉
特集号 85年8月号

「フランス演劇の現況」 読売新聞 96年6月

など

ほかに

「赤い繭」（安部公房作）、「鍵穴」（J・タルデュー作大岡信訳）などの演出（草月小劇場にて60～65年）。

（塩瀬 宏編）